

財団  
法人 八尾市文化財調査研究会報告115

美園遺跡（第6次調査）

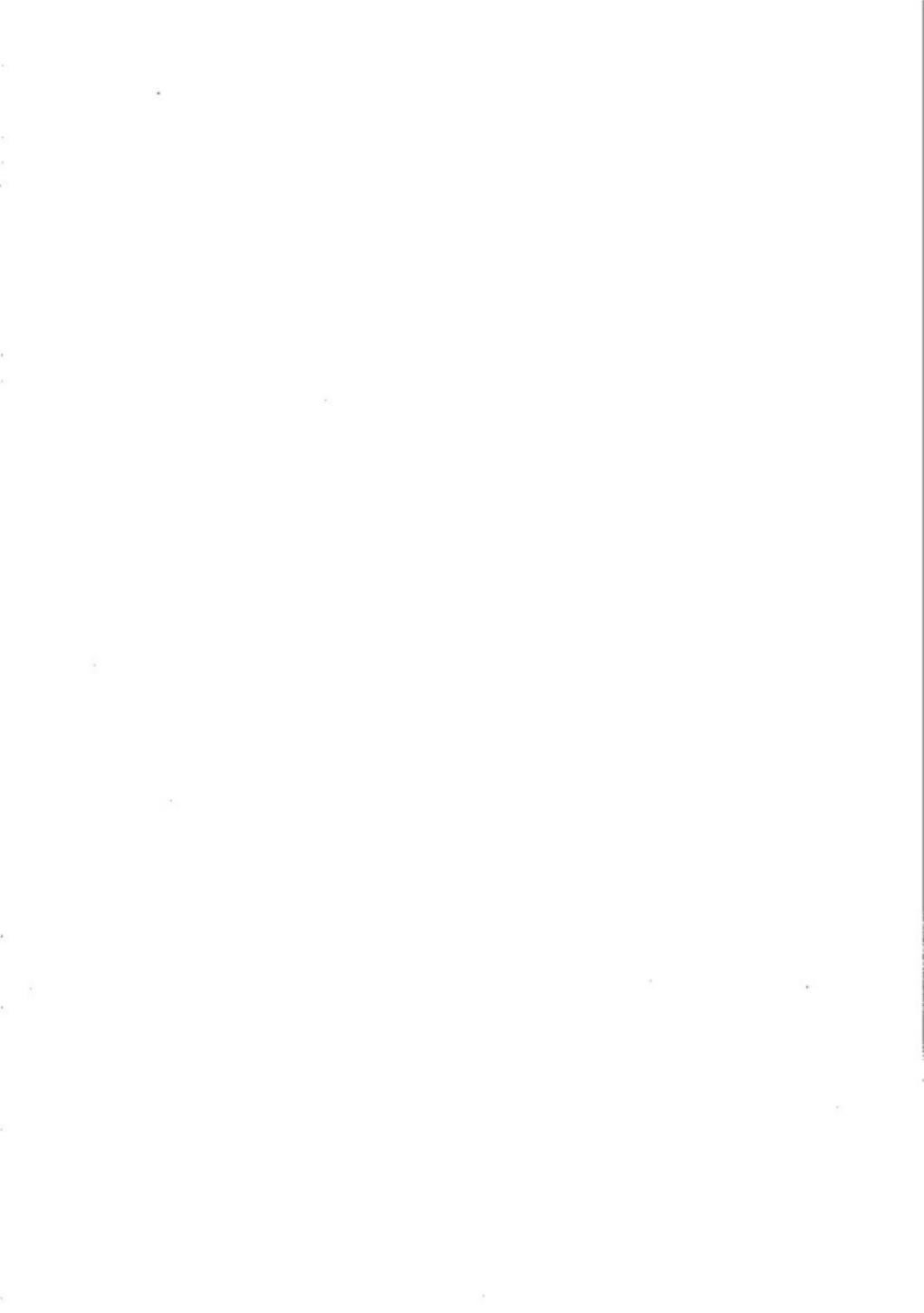
宮町遺跡（第4次調査）

八尾寺内町（第5次調査）

久宝寺遺跡（第74次調査）

2008年

財団法人 八尾市文化財調査研究会



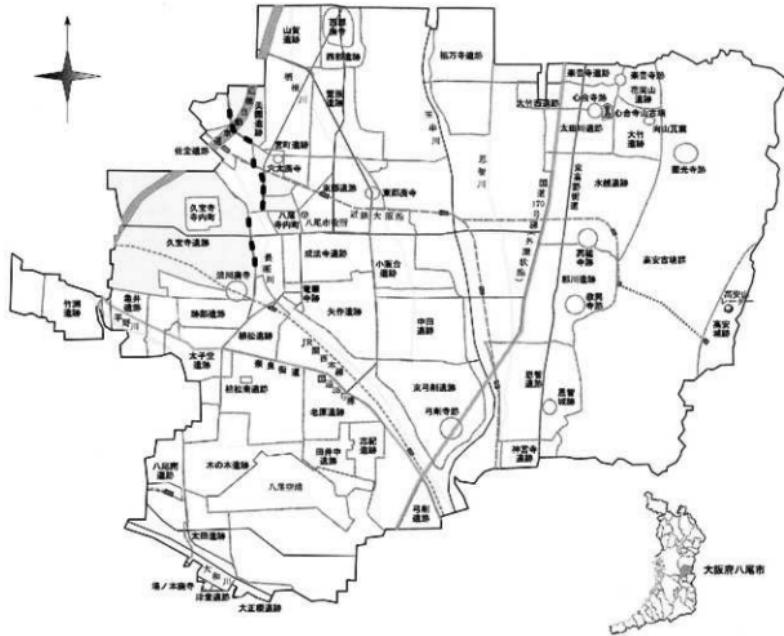
財団法人八尾市文化財調査研究会報告115

## 美園遺跡（第6次調査）

## 宮町遺跡（第4次調査）

## 八尾寺内町 (第5次調査)

## 久宝寺遺跡（第74次調査）



2008年

財団法人 八尾市文化財調査研究会

## はしがき

八尾市は大阪府の東部に位置し、旧大和川が形成した河内平野の中心部にあたります。古くから人々の生活の場として栄えていた地域であり、現在でもそれらの先人が残した貴重な文化遺産が数多く遺存しております。

近年、都市開発が進み各種土木工事等が増加するなか、これらの文化財を破壊から守ること、また記録保存し後世に伝承することが我々の責務であると認識する次第であります。

この度、平成18～20年度に実施いたしました大阪府水道改良事業送水管更新工事(八尾1・2・3工区)に伴う美園遺跡・宮町遺跡(隣接地を含む)・八尾寺内町・久宝寺遺跡の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。これらの遺跡は八尾市西部に位置し、調査地は旧大和川の主流であった長瀬川と古来より深く関連してきた地域であります。宮町遺跡では奈良時代、久宝寺遺跡では弥生時代～古墳時代初頭の集落の存在を想定できる成果がありました。

本書が学術研究の資料として、また文化財保護への啓発に広く活用されることを願うものであります。

最後になりましたが、この発掘調査が、関係諸機関及び地元の皆様の多大なる御理解と御協力によって進めることができましたことに深く感謝の意を表します。今後とも文化財保護に一層の御理解・御協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成20年5月

財團法人 八尾市文化財調査研究会

理事長 岩崎健二

## 例 言

- 本書は、大阪府八尾市美園町1丁目、及び佐堂町・宮町・本町・久宝寺・渋川町他（契約時の表記であり、実際の調査地の地番は下表のとおりである）で実施した大阪府水道改良事業送水管更新工事（八尾1・2・3工区）に伴う発掘調査報告書である。
- 本調査は、大阪府水道部東部水道事業所からの委託により、財団法人八尾市文化財調査研究会が平成18～20年度に実施したものである。
- 調査は当調査研究会の荒川和哉・河村恵理・坪田真一・西村公助・原田昌則・樋口 眞が担当した。
- 調査地は合計10箇所、総面積180m<sup>2</sup>（18m<sup>2</sup>×10箇所）で、美園遺跡・宮町遺跡（隣接地を含む）・八尾寺内町・久宝寺遺跡にわたる。なお、当初は計14箇所（佐堂遺跡を含む）の予定であったが、4箇所の工事が中止となり、契約を変更した。
- 各調査の要項は下記のとおりである。

工事名	立坑No	調査名	調査地	調査期間	実働日数	担当	
八尾1工区	8	美園遺跡 第6次調査 MS2006-6	第1調査区 (MS2006-6-1)	美園町4	20060921～20060927 (夜間調査)	2	坪田 樋口
	9		第2調査区 (MS2006-6-2)	美園町1	20070319～20070320 (夜間調査)	2	西村 樋口
	10		第3調査区 (MS2006-6-3)	美園町1	20070404～20070406 (夜間調査)	2	原田
八尾2工区	13	宮町遺跡 第4次調査 MM2007-4	第1調査区 (MM2007-4-1)	宮町2	20080319～20080324	3	河村
	14		第2調査区 (MM2007-4-2)	末広町2	20080130～20080221	3	坪田
	15		第3調査区 (MM2007-4-3)	本町6	20071204～20071206 (夜間調査)	2	荒川
	16	八尾寺内町第5次調査 YC2007-5	本町4	20071116～20071120	2	荒川	
八尾3工区	19	久宝寺遺跡 第74次調査 KH2007-74	第1調査区 (KH2007-74-1)	東久宝寺1	20080516～19	2	坪田
	20		第2調査区 (KH2007-74-2)	高町	20071212	1	荒川
	21		第3調査区 (KH2007-74-3)	高町	20080221 (夜間調査)	1	坪田

- 現地調査には、飯塚直世・川崎純弘・竹田貴子・中野一博・西出一樹・村井厚三の参加を得た。
- 内業整理には上記の他、中村百合（遺物実測）が参加し、現地調査終了後に着手して平成20年5月をもって終了した。
- 本書の執筆・写真撮影及びトレイスは、荒川・河村・坪田・樋口が主に担当調査区について行い、全体の編集は坪田が行った。
- 各調査に際しては、写真・実測図を作成している。市民の方々に広く利用されることを希望する。

## 凡 例

1. 本書掲載の地図は、大阪府八尾市役所発行の2500分の1(平成8年7月編纂)、八尾市教育委員会発行の『八尾市埋蔵文化財分布図』(平成19年度版)を基に作成した。
1. 本書で用いた高さの基準は東京湾標準潮位(T.P.)である。
1. 本書で用いた方位は日本測地系(第VI系)の座標北を示している。
1. 本書で用いた断面図の縮尺は垂直1/50に統一した。
1. 土色については、『新版 標準土色帖』1996 農林水産省農林水産技術会議事務局・財團法人日本色彩研究所色票監修を使用した。

## 本 文 目 次

第1章 はじめに.....	1
第2章 調査概要.....	1
第1節 調査方法.....	1
第2節 美園遺跡第6次調査.....	3
第3節 宮町遺跡第4次調査.....	5
第4節 八尾寺内町第5次調査.....	9
第5節 久宝寺遺跡第74次調査.....	10
第3章 まとめ.....	13

## 第1章 はじめに

今回の調査は大阪府水道改良事業送水管更新工事(八尾1・2・3工区)に伴う調査である。調査地は大阪府八尾市の西部を縦断する府道旧中央環状線上に主に設定された立坑部分10箇所で、範囲は南北約2kmに及び、遺跡範囲としては北から美園遺跡・宮町遺跡(隣接地を含む)・八尾寺内町遺跡・久宝寺遺跡の4遺跡にわたっている。隣接する佐堂遺跡・成法寺遺跡等を含めたこれらの遺跡群は、旧大和川の主流である長瀬川流域に位置しており、両岸の沖積地や自然堤防上では縄文時代以降の集落が確認されている。

美園遺跡は、昭和50(1975)年に大阪府教育委員会が府道大阪中央環状線敷地内で実施した発掘調査で発見された。そして昭和55(1980)～58(1983)年度には、近畿自動車道建設に伴う発掘調査が(財)大阪文化財センターにより実施され、縄文時代後期～近世の遺構・遺物が検出されている。なかでも古墳時代前期の方墳である美園古墳の検出は特筆され、検出状態のまま地中に保存されることとなり、周濠内出土の家形埴輪・壺形埴輪は重要文化財指定を受けている。

宮町遺跡では八尾市教育委員会・当調査研究会により数次の発掘調査が行われており、平安時代後期～近世の遺構・遺物が検出されている。穴太神社境内で実施された調査では土壙・礎石列・瓦溜りが検出されており、周辺は『河内鑑名所記』や『和漢三才図会』等の文献に見られる大日山千眼寺(穴太庵寺)に比定されている。

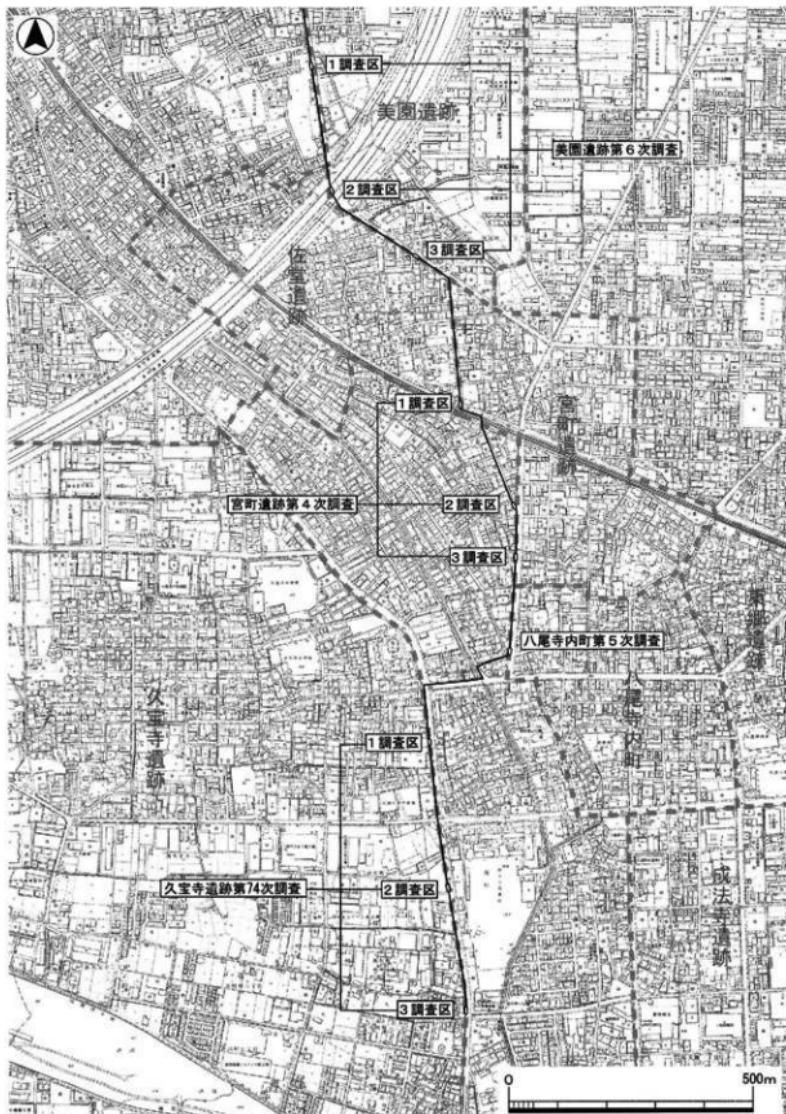
八尾寺内町は、慶長11(1606)年に、森本七郎兵衛ら17人を主導者とする一部の久宝寺寺内町住人と「慈願寺」が、久宝寺を出て長瀬川沿いの荒地を開拓し移住したこと始まる。そして翌年の「八尾御坊大信寺」建立により寺内町が形成され発展してゆく。これまでの4次にわたる発掘調査では、平安時代後期～室町時代を中心とする遺構・遺物が検出されている他、下層では弥生時代後期や古墳時代前期の遺構・遺物も確認されている。

久宝寺遺跡は、昭和10(1935)年に八尾市久宝寺5丁目で実施された道路工事中に、弥生土器や土師器・須恵器、そして丸木舟の残片が出土したことが発見の契機となった。その後、昭和55(1980)～61(1986)年に(財)大阪文化財センターによって実施された近畿自動車道建設に伴う発掘調査により、縄文時代晩期～近世の複合遺跡であることが判明した。今回の調査地である遺跡東部では散発的に調査が行われている状況であるが、弥生時代後期・古墳時代前期・平安時代の遺構・遺物が検出されている。また南東部には飛鳥時代創建の渋川廃寺が位置している。

## 第2章 調査概要

### 第1節 調査方法

今回の送水管更新工事の概要是、既設送水管(昭和27年埋設)の一部を切除し、そこから新たな送水管を挿入してゆくというものである。切除の際にはライナープレート構築による立坑が設置されるが、この部分(約24×7.5mの平面小判型：18.0m<sup>2</sup>)が調査区となる。既設送水管は開削工



第1図 調査地位置図

事による設置であるため、設置部分は完全に搅乱されている。このため主に調査対象となるのは、既設送水管の下部、及び壁面である。なお、主要幹線道路上の調査区5箇所については夜間調査となっている。

調査にあたっては、工事掘削深度である現地表下約2.6~4.0mまでについて、機械掘削・人力掘削により実施した。

掲載した平面図には工事図面を使用した。また調査で使用した標高の基準値は、八尾市作成の1/2500地形図記載値、および工事図面記載値を使用した。

## 第2節 美園遺跡第6次調査(MS2006-6)

### 〈1 調査区(MS2006-6-1)〉

#### 1. 調査の方法と経過

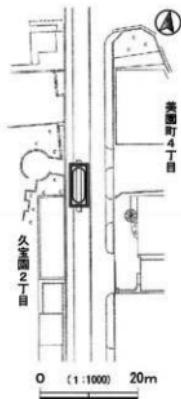
現地表(T.P.+7.0m)下1.3mまでは、調査前に掘削されており、ライナープレートが1段設置されていた。それより下が調査対象部分である。現地表下2.3mまでは、既設送水管埋設時の搅乱により殆ど壊されており、また地盤改良のため壁面はセメント化した状況であった。以下、現地表下3.3mまでは、工事に伴う掘削に立ち会い、遺構・遺物の有無の確認を行い、遺構が検出されなかったため、既設水道管下部断面の記録を取り調査を終了した。

#### 2. 層序

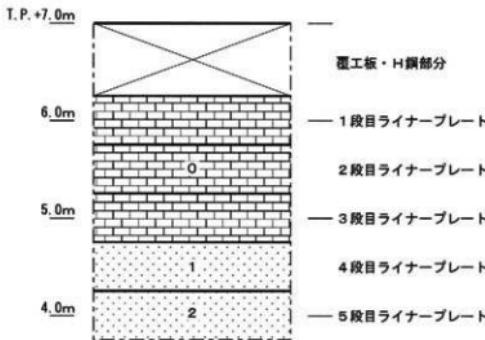
0層 未調査部分

1層 10Y6/1灰色粗粒砂(一部土壤改良の影響あり)

2層 10Y6/1灰色~10Y6/2オリーブ灰色粗粒砂~極粗粒砂



第2図 調査区位置図



#### 3. 検出遺構と出土遺物

調査では遺構・遺物は検出されなかった。

#### 4. 小結

現地表下2.3m(T.P.+5.7m)以下は、河川堆積による砂層が厚く堆積している。埋没時期等詳細は不明である。

第3図 断面模式図

## 〈2調査区(MS2006-6-2)〉

### 1. 調査の方法と経過

現地表(T.P.+7.75m)下1.3mまでは、調査前に掘削されており、ライナープレートが1段設置されていた。それ以下については、現地表下2.3mまでが、既設送水管埋設時の搅乱と、地盤改良の影響で壁面はセメント化するなど、6-1区と同じ様相を呈していた。以下、現地表下3.3mまでは、工事に伴う掘削に立ち会い、遺構・遺物の有無を確認したが、遺構が検出されなかつたため、壁断面の記録を取り調査を終了した。

### 2. 層序

0層 未調査部分

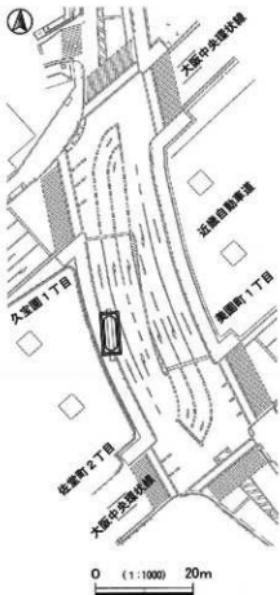
1層 10Y6/1灰色粗粒砂(一部土壤改良の影響あり)

### 3. 検出遺構と出土遺物

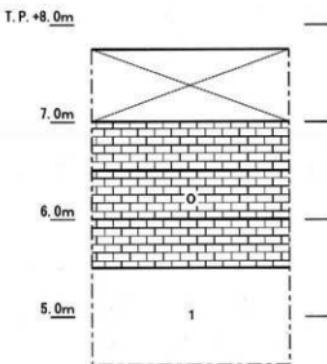
調査では遺構・遺物は検出されなかった。

### 4. 小結

現地表下2.2m(T.P.+5.5m)以下は、河川堆積による砂層が厚く堆積している。埋没時期等詳細は不明である。



第4図 調査区位置図



0 既設水道管等に伴う搅拌層  
1 10Y6/1灰色粗粒砂(一部土壤改良の影響あり)

第5図 断面模式図

## 〈3調査区(MS2006-6-3)〉

### 1. 調査の方法と経過

現地表(T.P.+9.2m)下1.3mまでは、調査前に掘削されており、ライナープレートが1段設置されていた。以下の現地表下3.6mまでについて、工事に伴う掘削に立ち会い、遺構・遺物の有無の確認を行い、壁断面の記録を取り調査を終了した。

## 2. 層序

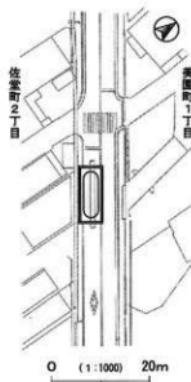
- 0層 未調査部分
- 1層 10YR7/4にぶい黄橙色砂質シルト
- 2層 7.5Y6/1灰色細粒砂混砂質シルト
- 3層 N6/0灰色粘土質シルト
- 4層 地盤改良により確認不可能
- 5層 2.5Y7/6明黄褐色細粒砂～極粗粒砂
- 6層 5B4/1暗青灰色粘土質シルト

## 3. 検出遺構と出土遺物

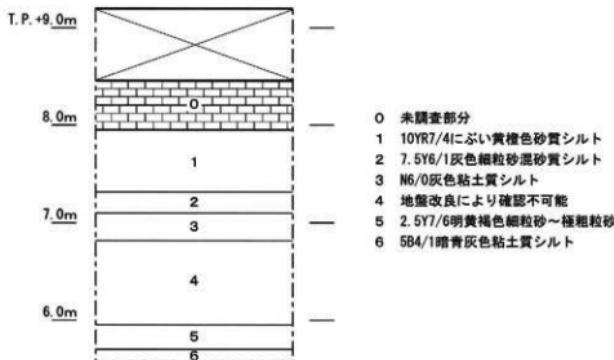
調査では遺構・遺物は検出されなかった。

## 4. 小結

現地表下1.3m(T.P.+7.9m)以下は、途中不明な部分もあるが河川堆積が続く。T.P.+6.8～7.9mは粘土質～砂質シルトから成る厚い滞水堆積である。



第6図 調査地位置図



第7図 断面模式図

## 第3節 宮町遺跡第4次調査(MM2007-4)

### 〈1調査区(MM2007-4-1)〉

#### 1. 調査の方法と経過

現地表(T.P.+7.78m)下1.3mまでは、調査前に掘削されており、ライナープレートが2段設置されていた。以下の掘削を開始したところ、壁面は大部分がセメント化しており、西壁中央部で辛うじて、2層に細分できる流水堆積層を確認した。以下の調査では壁面はセメント化しており、地層観察は既設送水管下部で行った。

## 2. 層序

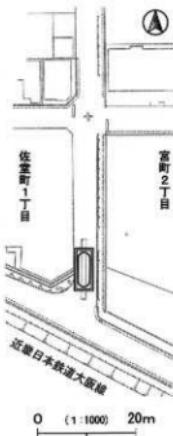
- 0層 既設水道管等に伴う搅拌層
- 1層 10GY4/1暗緑灰色粗粒砂混細粒砂～極細粒砂(径0.5cm台の礫を少量含む)
- 2層 7.5GY5/1緑灰色細礫～粗粒砂に、10GY3/1オリーブ黒色粘質シルトがブロック状に入る
- 3層 土壌改良の影響&既設送水管部により不明瞭
- 4層 5GY5/1オリーブ灰色中～細粒砂に、7.5GY4/1暗緑灰色粘質シルトがブロック状に入る
- 5層 7.5Y3/1オリーブ黒色粘土に、6層を巻き上げる
- 6層 7.5Y4/1暗緑灰色粘質シルト～粘土
- 7層 2.5GY5/1オリーブ灰色粗粒砂混シルトと、7.5Y4/1暗緑灰色粘質シルトが混ざり合う
- 8層 10Y3/1オリーブ黒色粘質シルト
- 9層 10GY5/1緑灰色粘土

## 3. 検出遺構と出土遺物

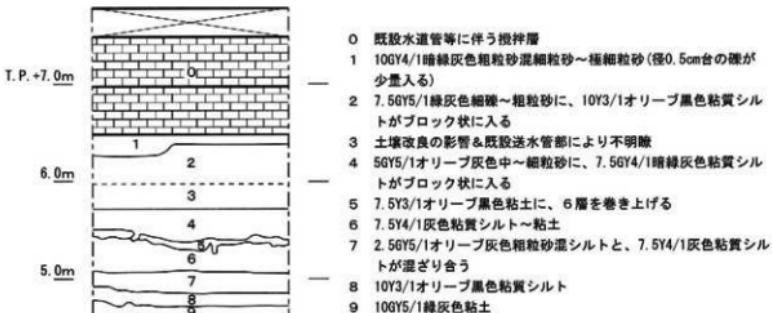
調査では遺構・遺物は検出されなかった。

## 4. 小結

今回の調査では、洪水によって堆積した砂礫層と水田耕作土層の堆積が交互に観察できた。時期が分かる遺物は出土しなかったが、近隣の既往調査成果(成海1993、原田2000)より、T.P.+6.0～6.5m間に堆積した流水堆積層は奈良～鎌倉時代の堆積層に対応するものと推察できる。また、8・9層は、水田耕作土の可能性が高い灰色粘質シルト層(成海1993)と対応するものと推察でき、古墳時代前期以降に堆積したものと考えられる。これらの成果より、調査地周辺は、古墳時代前期～奈良時代にかけて生産域であったものと考えられる。



第8図 調査区位置図



第9図 断面模式図

## 参考文献

- 成海佳子 1993「X美園遺跡(第1次調査)」『財団法人八尾市文化財調査研究会報告39』財団法人八尾市文化財調査研究会  
原田昌則 2000「佐野遺跡(第1次調査)」『財団法人八尾市文化財調査研究会報告66』財団法人八尾市文化財調査研究会

## 〈2調査区(MM2007-4-2)〉

### 1. 調査の方法と経過

現地表(T.P.+8.1m)下1.8mまでは、調査前に掘削されており、ライナープレートが3段設置されていた。以下の掘削を開始したところ河川堆積の砂層にあたり、著しい湧水による壁面の崩落の為工事続行が不可能となり、再度地盤改良を実施した。このため以下の調査では壁面はセメント化しており、地層観察は既設送水管下部で行った。

### 2. 層序

#### 0層 未調査部分

1層 10YR7/2に近い黄橙色極細粒砂～粗粒砂の互層。河川堆積層で層厚1.2m以上。

### 3. 検出構構と出土遺物

遺構は検出されなかった。遺物は1層から古墳時代前期の土師器、古墳時代後期・奈良時代の土師器・須恵器片が少量出土した。古墳時代前期の土師器はいずれもローリングを受け表面が磨耗しているが、古墳時代後期・奈良時代の土師器・須恵器片について良好な遺存状態のものが認められる。写真

1は土師器壺の焚口裾部の破片である。ハケ調整で、内面は煤ける。奈良時代頃に比定される。

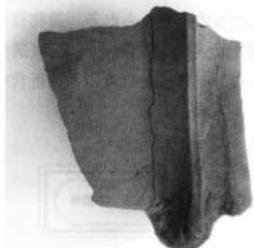
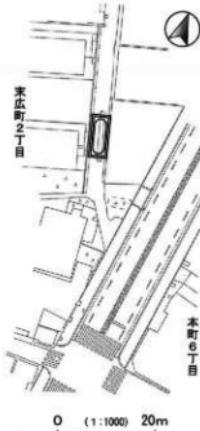
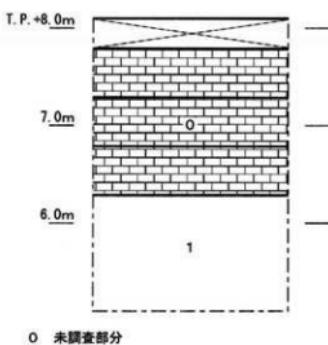


写真1



第10図 調査区位置図



第11図 断面模式図

### 4. 小結

調査では、T.P.+6.3～5.1mで奈良時代以降に埋没した河川堆積を確認した。奈良時代の土器は遺存状態が良好であり、周辺に当該期の集落が存在する可能性がある。

## 〈3調査区(MM2007-4-3)〉

### 1. 調査の方法と経過

現地表(T.P.+8.5m)下2.1mまでは、調査前に掘削されており、ライナープレートが3段設置されていた。それより下が調査対象部分である。現地表下2.6mまでは、既設送水管埋設時の搅乱

により殆ど壊されていたため、平面的な遺構検出は断念し、現地表下3.1mまでの壁断面の記録を主とする調査を行った。

調査の結果、近代の溝状遺構が確認された。

## 2. 層序

調査区東壁で確認された地層は、遺構埋土を除き以下の3層である。

0層 未確認

1層 10GY5/1緑灰色極細粒砂混じる粘土質シルトと4GY55/1オリーブ  
灰色細粒砂～極細粒砂の葉層の瓦層

2層 10Y4/1灰色極細粒砂混じる粘土質シルト

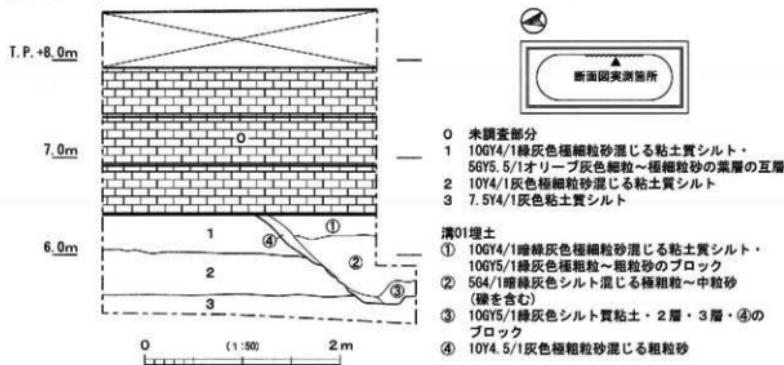
3層 7.5Y3/1灰色粘土質シルト 有機質

## 3. 検出遺構と出土遺物

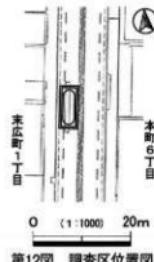
平面的に検出された遺構はなかった。壁断面で溝状遺構(溝01)を確認した。また今回の調査では、出土遺物は確認されなかった。

溝01

調査区南部で確認された。現地表下2.1mまではライナープレートが設置されていたため、帰属する層準は不明である。東壁・西壁で確認され、東西方向に伸びることがわかる。南肩は調査区外に至るため、幅は不明である。埋土は以下の4層に分けられる。①10GY4/1暗緑灰色極細粒砂混じる粘土質シルト・10GY5/1緑灰色極粗粒砂～粗粒砂のブロック、主に上部に木本・草本の植物遺体を含む、②5G4/1暗緑灰色シルト質粘土・2層・3層のブロックに④が混じる、③10Y4.5/1灰色極粗粒砂混じる粗粒砂、部分的に葉理が見られる。②は、いわゆるマサで、①・③とともに埋め戻しにより堆積したものである。④は溝の機能時に流水により堆積したものと考えられる。遺物は②から古墳時代中期頃の土師器甕片、金属製品が出土した。出土遺物から、戦時中に滑走路(調査地の位置する南北道路は、戦時中には滑走路として利用されていた。)が建設される以前の近代の遺構と考えられる。



第13図 東壁断面図



第12図 調査区位置図

#### 4. 小結

今回の調査では、近代の溝状遺構が確認された。今回の調査地は、大和川付替え以前の自然堤防の東側に当たる。明治時代の地図では、今回の調査地周辺は水田であったことが確認でき、溝状遺構は水田に伴う用水路であったと推測される。

#### 第4節 八尾寺内町第5次調査(YC2007-5)

##### 1. 調査の方法と経過

現地表(T.P.+9.3m)下2.15mまでは、調査前に掘削されており、ライナーブレートが3段設置されていた。それより下が調査対象部分である。現地表下2.65mまでは、既存の水道管埋設時の搅乱により殆ど壊されていたため、平面的な遺構検出は断念し、以下、現地表下3.3mまでの壁断面の記録を主とする調査を行った。

調査の結果、旧大和川の洪水により堆積した砂礫層と、その堆積後に形成された水田耕作土が確認された。

##### 2. 層序

調査区東壁で確認された地層は、以下の3層である。

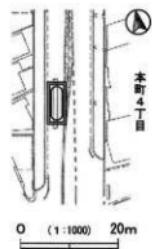
0層 未確認

1層 7.5GY4/1暗緑灰色極細粒砂混じる粘土質シルト

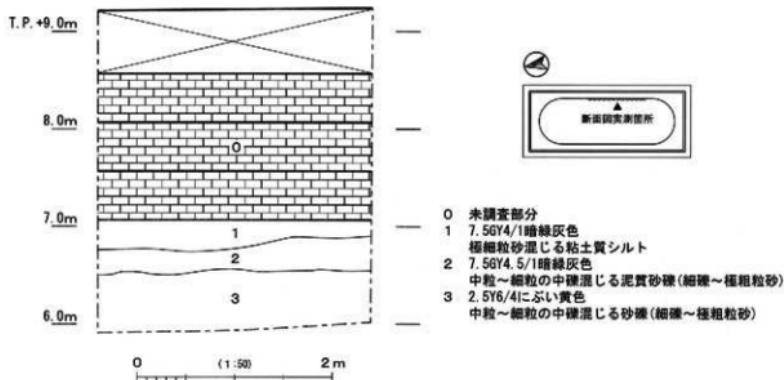
2層 7.5GY4.5/1暗緑灰色中粒～細粒の中疊混じる泥質砂礫(細疊～極粗粒砂)

3層 2.5Y6/4にぶい黄色(最上部は10GY5.5/1緑灰色、酸化鉄分が沈着している部分は7.5YR5/6明褐色)中粒～細粒の中疊混じる砂礫(細疊～極粗粒砂)、板状層理が見られる

1層は、水田耕作土と考えられる。中世の土器器皿と見られる細片が確認されたが、時期は詳らかにできない。2層は、3層と一連の砂礫層と見られるが、泥質で分級が悪いことから、二次



第14図 調査区位置図



第15図 東壁断面図

的に攪拌されている可能性がある。3層は、旧大和川の洪水により堆積した砂礫層と考えられる。土師器の細片が確認されたが、器種・時期は不明である。1層・2層は、東壁のみで確認され、西側では現地表下2.2m以下は3層が堆積していた。

### 3. 検出遺構と出土遺物

平面的に検出された遺構はなかった。壁断面上でも遺構の存在を示すものは確認されなかつた。出土遺物は、1層から土師器皿と見られる細片、3層から土師器の細片を確認した。

### 4. 小結

今回の調査では、旧大和川の洪水により堆積した砂礫層が確認された。現在、調査区の位置する部分は東側より地表が高く、大和川付替え前の自然堤防上に当たると推測される。調査区の東部以東は砂礫層の堆積後水田であったことが確認された。

## 第5節 久宝寺遺跡第74次調査(KH2007-74)

〈1調査区(KH2007-74-1)〉

### 1. 調査の方法と経過

現地表(T.P.+9.0m)下1.9mまでは、調査前に掘削されており、ライナーブレートが2段設置されていた。以下の調査では平面観察、及び東・西壁で断面観察を実施した。

### 2. 層序

0層 未調査部分

1層 10Y5/1灰色粘土質シルト～中粒砂

2層 25GY4/1暗オリーブ灰色シルト～粘土質シルト互層

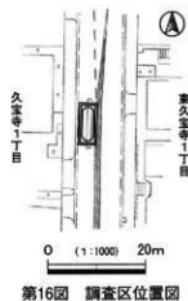
3層 5GY3/1暗オリーブ灰色細粒砂～中粒砂混粘土質シルト

4層 5GY5/1オリーブ灰色シルト～粘土質シルト互層  
ルト互層

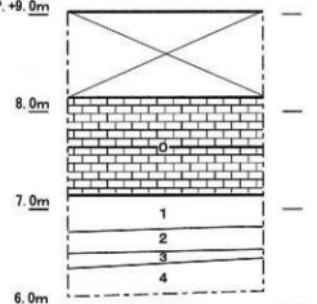
1層は西壁では砂層となっている。3層は土壤化層と考えられ暗色を呈する層相である。弥生時代後期～古墳時代初頭の土器を含んでいる。

### 3. 検出遺構と出土遺物

遺構は検出されなかつた。遺物は3層から弥生時代後期～古墳時代初頭に比定される土器が出土しており、1～4を図化した。1は広口壺口縁部である。頸部内面は横方向のケズリを施す。2は壺底部で、外面はヘラミガキ。3は小形の鉢で、調整はヘラミガキと思われるが不明瞭である。4は甕底部で内面が焼けている。いずれも弥生時代後期に比定されるものであるが、他に細筋のタタキを施す甕の破片が認められ、3層の時期としては古墳時代初頭(庄内式期)と捉えられる。



第16図 調査区位置図

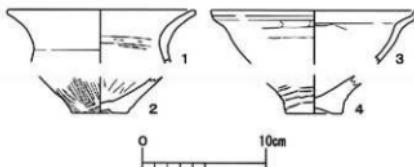


- 0 未調査部分  
1 10Y5/1灰色粘土質シルト～中粒砂  
2 2.5GY4/1暗オリーブ灰色シルト～粘土質シルト互層  
3 5GY3/1暗オリーブ灰色細粒砂～中粒砂混粘土質シルト  
4 5GY5/1オリーブ灰色シルト～粘土質シルト互層

第17図 東壁断面模式図

#### 4. 小結

調査では、T.P.+6.4～6.6m付近で弥生時代後期～古墳時代初頭の遺物包含層が確認された。T.P.+6.4～6.5mの4層上面が当該期の遺構面と考えられる。



第18図 K H 2007-74-1出土遺物

#### 〈2調査区(K H 2007-74-2)〉

##### 1. 調査の方法と経過

現地表(T.P.+9.2m)下1.75mまでは、調査前に掘削されており、ライナーブレートが2段設置されていた。それより下が調査対象部分である。現地表下2.65mまでは、既存の水道管埋設時の搅乱により殆ど壊されていたため、平面的な遺構検出は断念し、以下、現地表下3.2mまでの壁断面の記録を主とする調査を行った。

##### 2. 層序

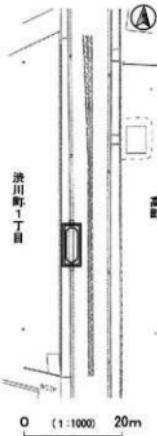
調査区東壁で確認された地層は、以下の5層である。

0層 未確認

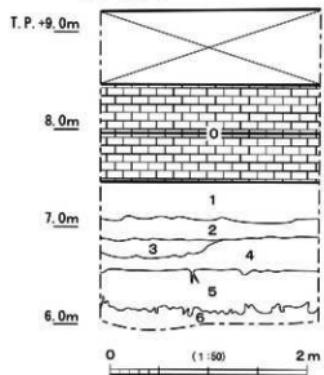
1層 5GY4/1暗オリーブ灰色細粒混じる粘土質シルトに5GY3.5/1暗オリーブ灰色泥質細粒砂～極細粒砂が斑状に混じる、上部は酸化鉄分(糸根状・染み状)でにぶい黄褐色

2層 5GY4/1暗オリーブ灰色極細粒砂混じる粘土質シルト～シルト質粘土、1層下部から2層にかけて炭酸鉄を含む

3層 5GY4/1暗オリーブ灰色極細粒砂混じる粘土質シルトに4層が斑状に混じる



第19図 調査区位置図



第20図 西壁断面図

4層 10GY6.5/1明緑灰色細粒の中礫混じる細礫～粗粒砂、上部は7.5GY5/1緑灰色泥質極粗粒砂～粗粒砂、斜交層理が見られる

5層 7.5Y3.5/1オリーブ黒色極細粒砂混じる粘土質シルト、有機質に富む。

6層 2.5GY4/1暗オリーブ灰色粘土質シルト～シルト質粘土、5層下部から6層上部にかけて炭酸鉄を含む。

1層・5層は、水田耕作土と考えられる。3層は、耕作により形成された遺構埋土と見られる。4層は、洪水により堆積した砂礫と見られる。いずれの地層からも出土遺物は確認されず、時期は不明である。

### 3. 検出遺構と出土遺物

平面的に検出された遺構はなかった。壁断面の4層上面で遺構埋土と見られる層(3層)を確認した。各層から出土遺物は確認されなかった。

### 4. 小結

今回の調査では、洪水により堆積した砂礫層と、その上下で水田耕作土が確認された。遺物は確認されなかつたため時期は不明であるが、概ね調査区周辺は水田であったと推測される。

## 〈3調査区(K H2007-74-3)〉

### 1. 調査の方法と経過

現地表(T.P.+10.1m)下2.4mまでは、調査前に掘削されており、ライナープレートが3段設置されていた。以下の調査では調査区北半で平面・断面観察を実施した。

### 2. 層序

0層 未確認

1層 2.5GY6/1オリーブ灰色細粒砂混粘土。

2層 5GY7/1明オリーブ灰色細粒砂～粗粒砂。

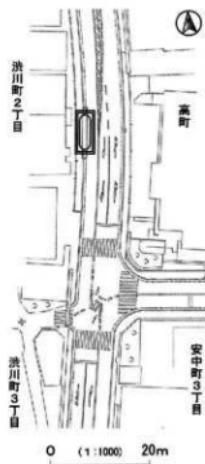
なお1層の上位にも2.5Y5/4黄褐色細粒砂～粗粒砂が存在しているようで、ライナープレート裏側からの流出で確認している。

### 3. 検出遺構と出土遺物

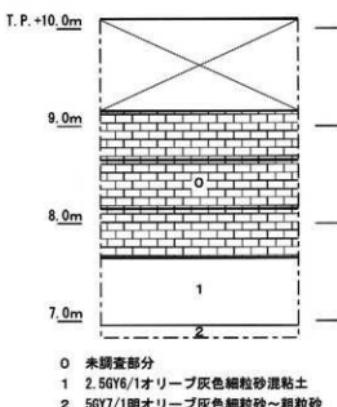
遺構・遺物は検出されなかった。

### 4. 小結

調査では、T.P.+7.7m以下で粘土・砂の互層から成る河川堆積を確認した。



第21図 調査区位置図



第22図 断面模式図

## 第3章 まとめ

今回の調査は八尾市の西部に位置する美園遺跡・宮町遺跡(隣接地を含む)・八尾寺内町・久宝寺遺跡にわたる調査で、点的な調査ではあるが調査範囲は南北約2kmに及んでいる。調査地が既設管路部分であり、地盤改良の影響や、多くが夜間調査という条件もあって、十分な調査は実施できなかった。

調査地の多くが旧大和川の主流であった長瀬川の自然堤防上に位置しており、いずれの調査地においても、下部では洪水砂層や河川堆積層が認められた。

明確な遺構としては、宮町遺跡3調査区において近代の溝を1条(溝01)、断面で確認したのみである。

宮町遺跡1調査区では洪水によって堆積した砂疊層と水田耕作土層の堆積が交互に観察され、近隣の調査成果から勘案して当地は古墳時代前期～奈良時代にかけて生産域であったものと考えられる。

久宝寺遺跡1調査区では、弥生時代後期～古墳時代初頭の遺物を一定量含む遺物包含層が確認された。T.P.+6.4～6.5mが当該期の遺構面と考えられる。北西約450mの第8次調査地や西南西約400mの90-566調査地において同時期の集落域を確認しているが、本調査区周辺では発掘調査はあまり実施されておらず、遺跡の様相が不明な地域であり貴重な成果といえる。

他に遺物はほとんど出土しておらず、宮町遺跡2調査区の河川堆積層からの古墳時代前期の土師器、古墳時代後期・奈良時代の土師器・須恵器片、八尾寺内町からの土師器片のみである。宮町遺跡2調査区の奈良時代の土器には良好な遺存状態のものが認められ、周辺に当該期の集落の存在が考えられる。

### 参考文献

- 坪田真一 1997「I 久宝寺遺跡(第8次調査)」『久宝寺遺跡 財團法人八尾市文化財調査研究会報告55』財團法人八尾市文化財調査研究会
- 道 善 1992「1. 久宝寺遺跡(90-566)の調査」『八尾市内遺跡平成3年度発掘調査報告書 八尾市文化財調査報告25 平成3年度国庫補助事業』八尾市教育委員会



MS 2006-6-1 調査地(北東から)



MS 2006-6-1 機械掘削(北西から)



MS 2006-6-1 南壁(T.P.+3.8~4.3m)



MS 2006-6-2 掘削状況(北東から)



MS 2006-6-2 東壁(T.P.+4.5~5.5m)



MS 2006-6-3 掘削状況(南西から)



MS 2006-6-3 北壁(T.P.+6.5~8.0m)



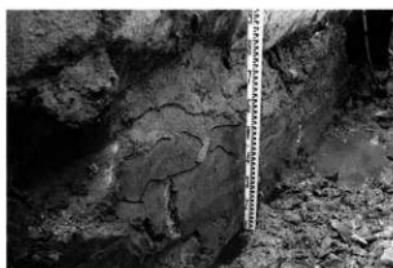
MS 2006-6-3 既設管下部(北東から)



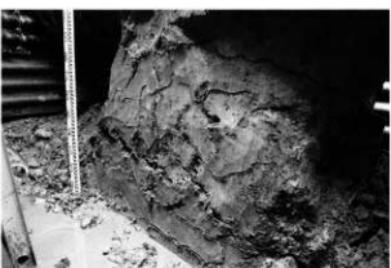
MM2007-4-1 調査地(北東から)



MM2007-4-1 西壁(T.P.+5.7~6.5m)



MM2007-4-1 西壁(T.P.+5.0~5.7m)



MM2007-4-1 西壁(T.P.+4.6~5.6m)



MM2007-4-2 調査地(北東から)



MM2007-4-2 機械掘削(北東から)



MM2007-4-2 東壁(T.P.+5.6~6.3m)



MM2007-4-2 東壁(T.P.+5.1~5.8)



MM2007-4-3 調査地(北東から)



MM2007-4-3 東壁(T.P.+5.6~6.4m)



MM2007-4-3 溝01東壁



MM2007-4-3 東壁(T.P.+5.3~5.6m)



Y C 2007-5 調査地(北東から)



Y C 2007-5 掘削状況



Y C 2007-5 東壁(T.P.+6.5~7.0m)



Y C 2007-5 東壁(T.P.+6.0~6.5m)

久宝寺遺跡第74次



K H2007-74-1 調査地(南から)



K H2007-74-1 調査状況(南から)



K H2007-74-2 東壁(T.P.+6.1~7.2m)



K H2007-74-2 調査地(南東から)



K H2007-74-2 西壁上部(T.P.+6.8~7.5m)



K H2007-74-2 西壁下部(T.P.+6.0~6.8m)



K H2007-74-3 機械掘削状況(南東から)



K H2007-74-3 西壁(T.P.+6.8~7.6m)

## 報 告 書 抄 錄

財団法人 八尾市文化財調査研究会報告115

美園遺跡（第6次調査）

宮町遺跡（第4次調査）

八尾寺内町（第5次調査）

久宝寺遺跡（第74次調査）

発行 平成20年5月  
編集 財團法人 八尾市文化財調査研究会  
〒581-0821  
大阪府八尾市幸町四丁目58番地の2  
TEL・FAX 072-994-4700

印刷 **株** 近畿印刷センター  
表紙 レザック66 <260Kg>  
本文 ニューエイジ <70Kg>  
国版 ニューエイジ <70Kg>

